

# 宮 城 県 の 経 済 動 向

令和6年第2四半期

(4月～6月期)

# I 概況

令和6年第2四半期(4～6月期)の宮城県の経済動向について、指標別にみると以下のとおりとなっている。

- ・ 生産は鉱工業生産指数が2期連続の上昇となった。
- ・ 住宅投資は分譲住宅や貸家などの増加により7期ぶりの増加となった。
- ・ 公共投資はその他(独立行政法人等、地方公社、その他)などの発注工事が減少したことにより、2期連続の減少となった。
- ・ 個人消費では、百貨店・スーパー販売額は9期連続の増加、コンビニエンスストア及び専門量販店を加えた合計販売額(参考値)は10期連続の増加となった。乗用車新車登録・届出台数は軽自動車や小型車などの減少により2期連続の減少となった。仙台市消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は12期連続の上昇となった。
- ・ 雇用では、有効求人倍率、新規求人倍率ともに2期ぶりの低下となった。所定外労働時間は6期連続の減少、実質賃金指数は2期連続の上昇、雇用保険受給者実人員は5期連続の増加となった。
- ・ 企業倒産件数は、7期連続の増加となった。

(単位：％、ポイント)

主要経済指標の推移(前期比(差)、前年同期比)		令和4年			令和5年			令和6年		
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
生産	鉱工業生産指数 ※1 (前期比)	1.8	9.4	▲ 3.0	▲ 8.8	0.4	▲ 3.7	▲ 3.8	1.6	10.0
住宅投資	新設住宅着工戸数 (前年同期比)	5.7	14.2	▲ 1.9	▲ 0.1	▲ 9.3	▲ 12.1	▲ 11.2	▲ 11.1	30.9
公共投資	公共工事請負金額 (前年同期比)	▲ 4.2	2.0	▲ 32.1	▲ 20.4	▲ 14.8	0.3	16.2	▲ 4.3	▲ 3.8
個人消費	百貨店・スーパー販売額 ※2 (前年同期比)	0.2	1.8	1.7	2.8	2.7	3.2	3.2	4.3	0.5
	コンビニエンスストア販売額 (前年同期比)	2.9	3.0	4.4	4.0	2.9	3.9	0.8	0.5	▲ 0.6
	家電大型専門店販売額 (前年同期比)	▲ 0.8	▲ 3.0	6.7	▲ 0.9	▲ 6.7	8.9	▲ 0.9	2.5	4.3
	ドラッグストア販売額 (前年同期比)	5.9	7.9	10.9	8.0	8.1	8.9	7.7	9.2	7.5
	ホームセンター販売額 (前年同期比)	▲ 2.3	▲ 1.4	1.2	▲ 2.1	▲ 4.8	▲ 3.0	▲ 3.1	▲ 2.9	0.5
	計 ※3 (前年同期比)	1.5	2.5	4.1	3.3	2.3	4.3	2.6	3.6	1.7
	乗用車(含軽)新車登録・届出台数 (前年同期比)	▲ 6.2	8.8	8.6	13.9	19.5	10.3	14.7	▲ 17.4	▲ 14.2
	仙台市消費者物価指数 ※4 (前年同期比)	2.6	3.5	4.4	4.1	3.8	3.9	3.4	3.0	3.2
雇用	有効求人倍率 ※5 (前期差)	0.02	0.03	0.02	0.01	▲ 0.03	▲ 0.04	▲ 0.03	0.00	▲ 0.07
	新規求人倍率 ※5 (前期差)	▲ 0.04	0.03	0.02	▲ 0.01	▲ 0.07	▲ 0.05	▲ 0.04	0.03	▲ 0.16
	所定外労働時間 ※6 (前年同期比)	0.6	3.5	12.8	▲ 4.2	▲ 0.2	▲ 8.7	▲ 10.4	▲ 0.7	▲ 2.9
	実質賃金指数 ※6 (前年同期比)	▲ 6.4	5.3	▲ 7.3	0.8	3.0	0.3	▲ 0.2	3.5	2.2
	雇用保険受給者実人員 (前年同期比)	▲ 6.4	▲ 1.0	▲ 1.5	▲ 1.6	1.3	1.0	6.1	5.8	6.3
企業倒産	企業倒産件数 (前年同期比)	21.4	0.0	73.3	24.2	105.9	41.7	26.9	7.3	42.9

- ※1 令和2年=100。  
 ※2 全店舗比較による。  
 ※3 各公表値(端数処理済)の合算による概算値(参考)。  
 ※4 令和2年=100。生鮮食品を除く総合指数。  
 ※5 単位はポイント。  
 ※6 令和2年=100。事業所規模30人以上、製造業。実質賃金は現金給与総額。

## II 主な指標の動き

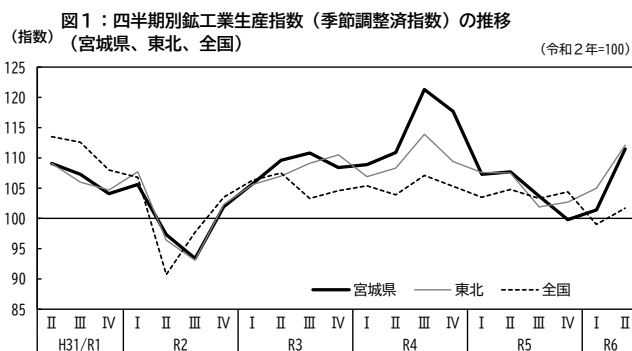
### 1 生産

#### ○ 鉱工業生産指数

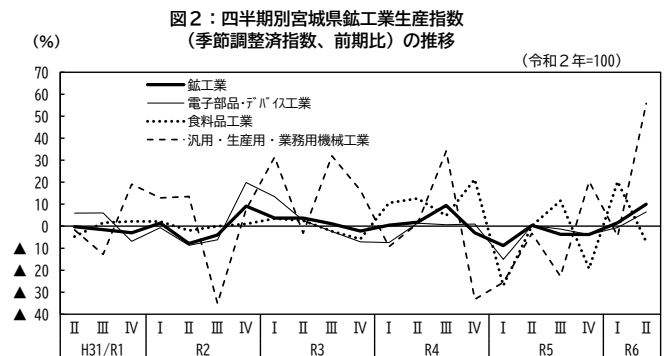
令和6年第2四半期(4～6月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は 111.5(令和2年=100)で、前期比が10.0%の上昇となり、2期連続の上昇となった(図1、図2)。

ウェイトの大きい業種を中心に前期比をみると、汎用・生産用・業務用機械工業は 55.8%上昇し、2期ぶりの上昇となった。電子部品・デバイス工業は 6.5%上昇し、4期ぶりの上昇となった。食料品工業は 7.1%低下し、2期ぶりの低下となった。(図2)

前年同期比(原指数での比較)では 3.4%の上昇となり、6期ぶりの上昇となった。



(資料：宮城県統計課)



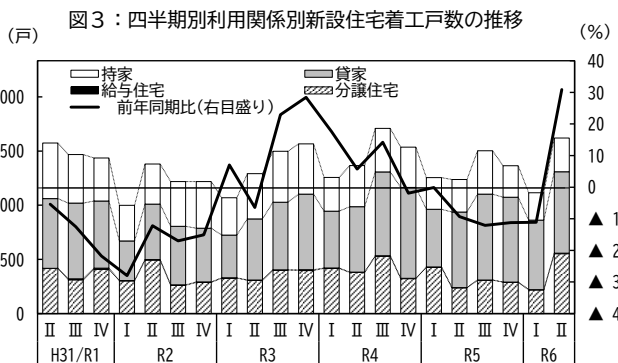
(資料：宮城県統計課)

### 2 住宅投資

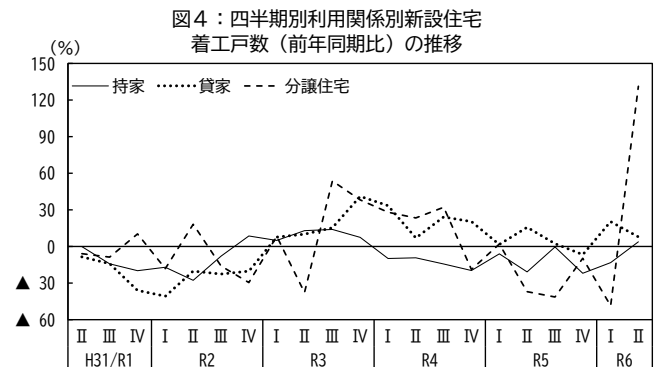
#### ○ 新設住宅着工戸数

令和6年第2四半期(4～6月期)の新設住宅着工戸数は 4,862 戸で前年同期比が 30.9%の増加となり、7期ぶりの増加となった(図3)。

利用関係別に前年同期比をみると、分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は 131.2%増加し、5期ぶりの増加となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は 7.8%増加し、2期連続の増加となった。持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は 3.8%増加し、10期ぶりの増加となった。(図4)



(資料：国土交通省)



(資料：国土交通省)

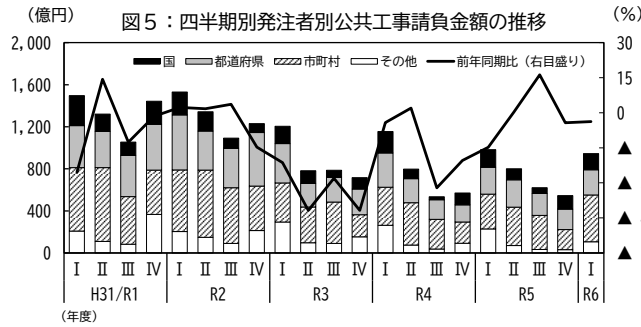
### 3 公共投資

#### ○ 公共工事請負金額

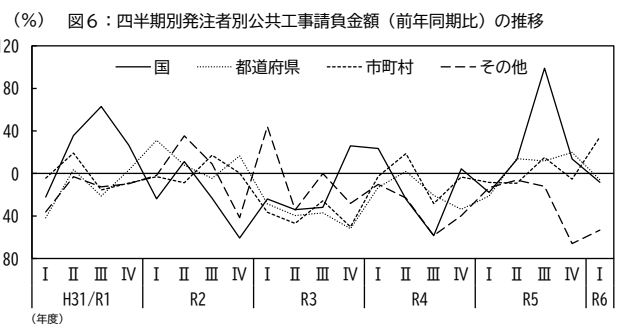
令和6年度第1四半期(4~6月期)の公共工事請負金額は 945 億 34 百万円で、前年同期比が 3.8%減少し、2期連続の減少となった(図5)。

発注者別に前年同期比をみると、その他(独立行政法人等、地方公社、その他)は 53.3%減少し、12 期連続の減少となった。都道府県は 6.0%減少し4期ぶりの減少となった。国は 8.3%減少し4期ぶりの減少となった。市町村は 34.3%増加し2期ぶりの増加となった。(図6)

※ 公共工事請負金額は、年度をベースにしているため、動向や資料は年度を基準としています。



(資料:東日本建設業保証(株))



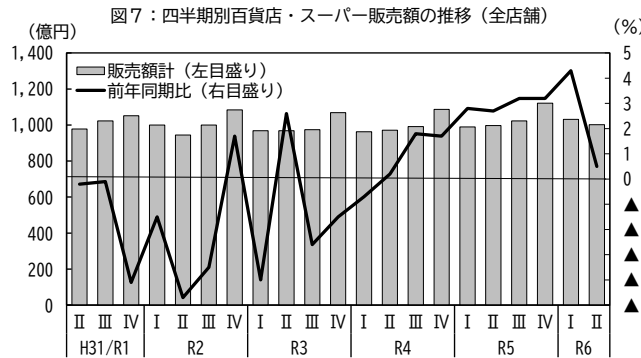
(資料:東日本建設業保証(株))

### 4 個人消費

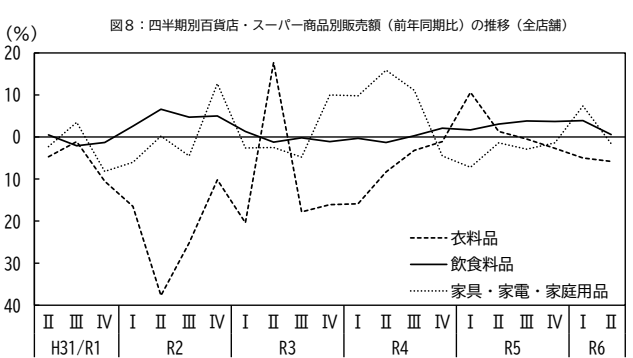
#### (1) 百貨店・スーパー販売額

令和6年第2四半期(4~6月期)の百貨店・スーパー販売額は 1,002 億 9 百万円で、全店舗比較の前年同期比は 0.5%増加し、9期連続の増加となった(図7)。既存店比較の前年同期比は 0.8%の増加となり、8期連続の増加となった。

商品別に前年同期比(全店舗比較)をみると、飲食料品は 0.6%増加し、8期連続の増加となった。その他商品(医薬品、化粧品、洗剤、書籍等)は 2.4%増加し、11 期連続の増加となった。身の回り品は 4.4%増加し、11 期連続の増加となった。食堂・喫茶は 2.9%増加し、13 期連続の増加となった。家具・家電・家庭用品は 1.6%減少し、2期ぶりの減少となった。衣料品は 5.8%減少し、4期連続の減少となった。(図8)



(資料:東北経済産業局)

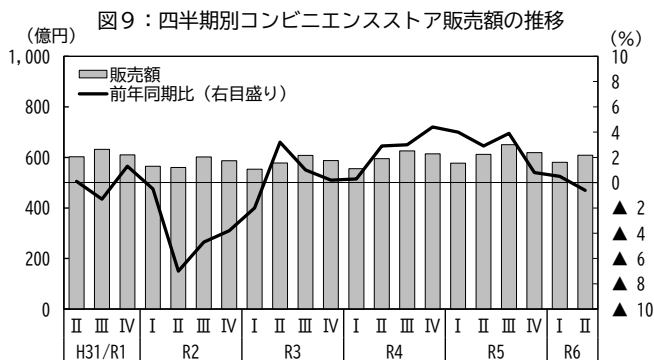


(資料:東北経済産業局)

※ 平成 27 年 7 月、令和 2 年 3 月に調査対象事業所の見直しが行われたため、前年同期値をリンク係数で補正 (12 頁参照)

## (2) コンビニエンスストア販売額

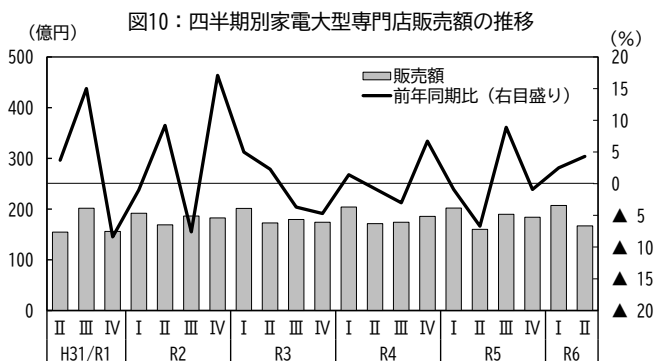
令和6年第2四半期(4~6月期)のコンビニエンスストア販売額は608億41百万円で、前年同期比は0.6%減少し、13期ぶりの減少となった(図9)。



(資料:東北経済産業局)

## (3) 家電大型専門店販売額

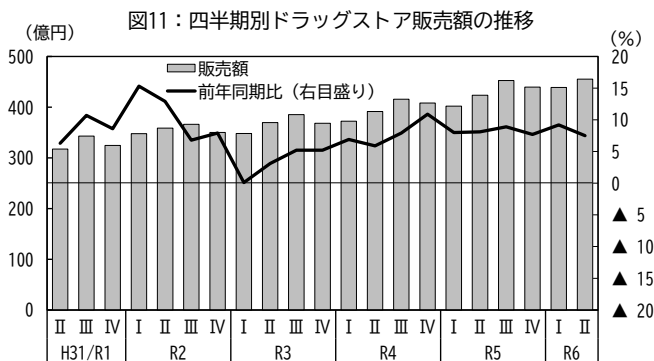
令和6年第2四半期(4~6月期)の家電大型専門店販売額は166億66百万円で、前年同期比は4.3%増加し、2期連続の増加となった(図10)。



(資料:東北経済産業局)

## (4) ドラッグストア販売額

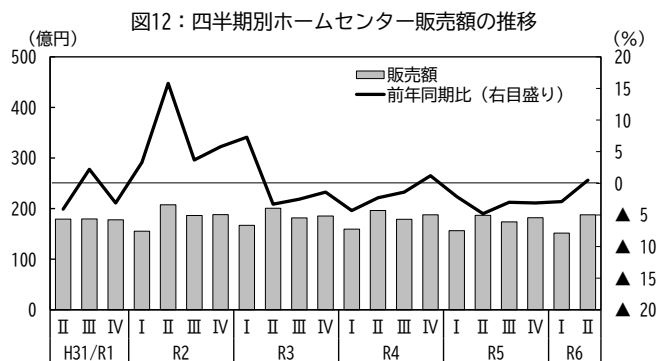
令和6年第2四半期(4~6月期)のドラッグストア販売額は455億18百万円で、前年同期比は7.5%増加し、33期連続の増加となった(図11)。



(資料:東北経済産業局)

## (5) ホームセンター販売額

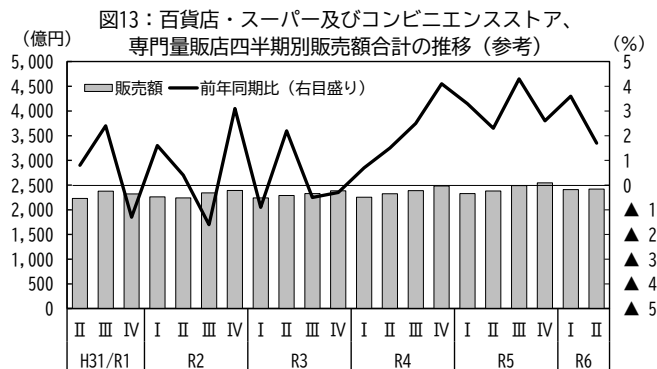
令和6年第2四半期(4～6月期)のホームセンター販売額は187億71百万円で、前年同期比は0.5%増加し、6期ぶりの増加となった(図12)。



(資料:東北経済産業局)

## (6) 百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額(参考)

令和6年第2四半期(4～6月期)の百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額の合計(概算による参考値)は2,420億5百万円で、前年同期比は1.7%増加し、10期連続の増加となった(図13)。



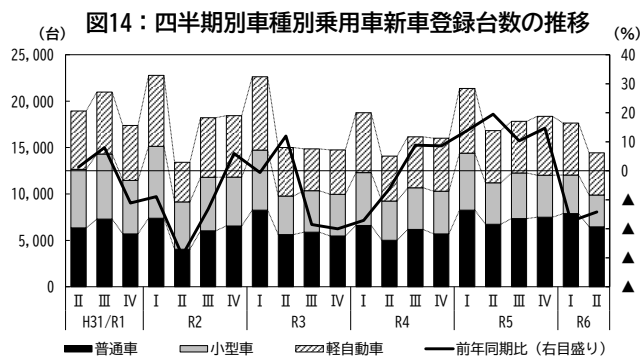
(資料:東北経済産業局)

※(1)～(5)各公表値(端数調整済)の合算による概算値。

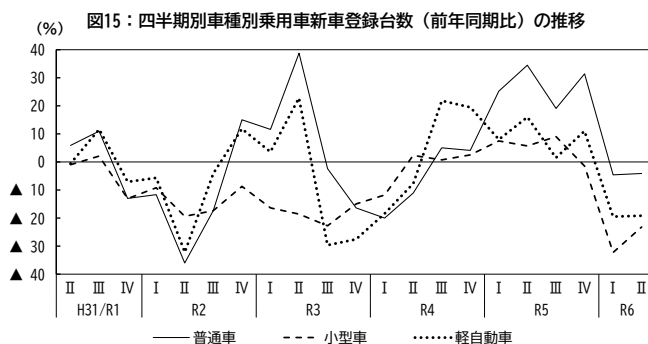
## (7) 乗用車新車登録及び届出台数

令和6年第2四半期(4～6月期)の軽自動車新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万4,429台で、前年同期比が14.2%減少し、2期連続の減少となった(図14)。

車種別に前年同期比をみると、軽自動車は19.2%減少し、2期連続の減少となった。小型車は23.2%減少し、3期連続の減少となった。普通車は4.1%減少し、2期連続の減少となった。(図15)



(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)



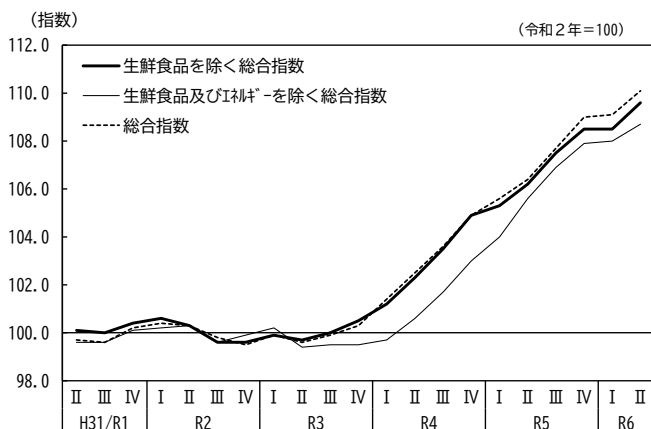
(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)

## (8) 仙台市消費者物価指数

令和6年第2四半期(4～6月期)の仙台市消費者物価指数(令和2年=100)は、生鮮食品を除く総合指数は109.6で、前期比が1.0%上昇し、2期ぶりの上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は108.7で、前期比が0.6%上昇し、12期連続の上昇となった。総合指数は110.1で、前期比が0.9%上昇し、12期連続の上昇となった(図16)。

前年同期比では、生鮮食品を除く総合指数は3.2%上昇し、12期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は2.9%上昇し、9期連続の上昇となった。総合指数は3.5%上昇し、12期連続の上昇となった。

図16：四半期別仙台市消費者物価指数の推移



(資料:宮城県統計課)

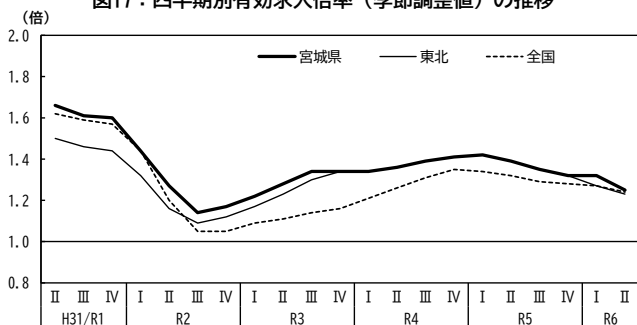
## 5 雇用

### (1) 求人倍率

令和6年第2四半期(4～6月期)の有効求人倍率(季節調整値、4～6月平均値)は1.25倍で、前期差は0.07ポイント低下し、2期ぶりの低下となった(図17)。

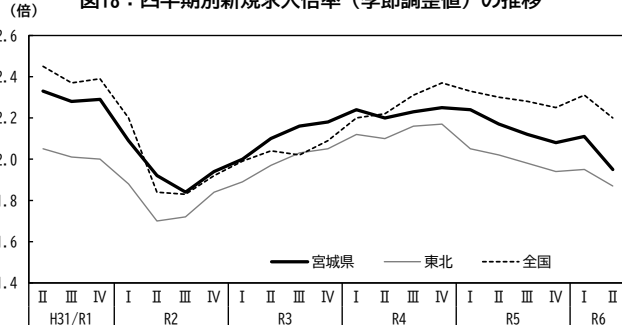
新規求人倍率(季節調整値、4～6月平均値)は1.95倍で、前期差は0.16ポイント低下し、2期ぶりの低下となった(図18)。

図17：四半期別有効求人倍率(季節調整値)の推移



(資料:宮城労働局)

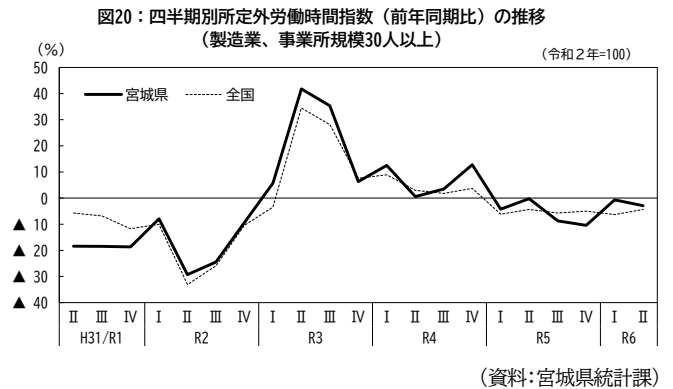
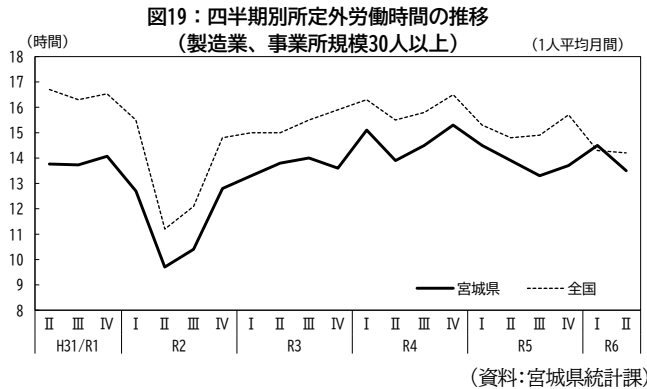
図18：四半期別新規求人倍率(季節調整値)の推移



(資料:宮城労働局)

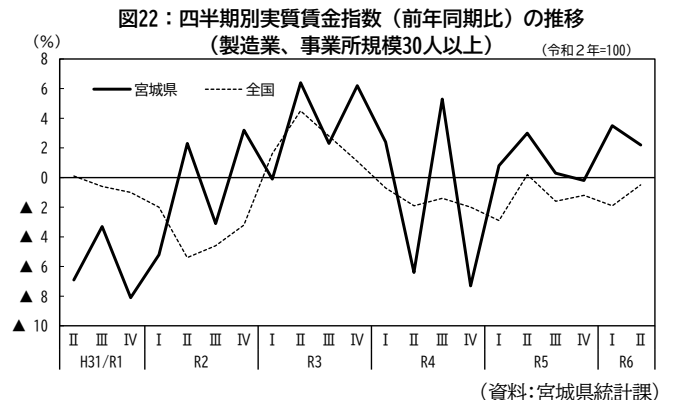
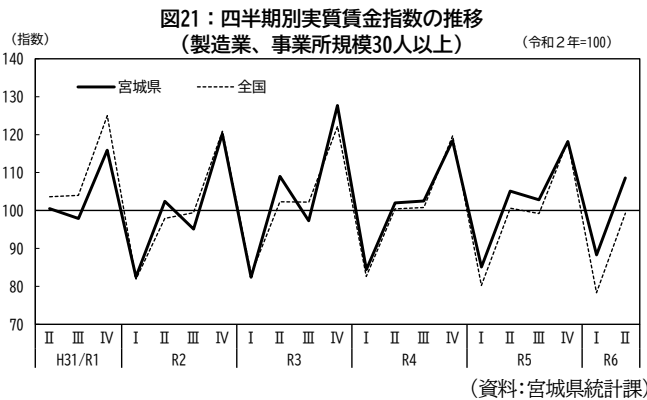
## (2) 所定外労働時間

令和6年第2四半期(4~6月期)の所定外労働時間(製造業、事業所規模30人以上、1人平均月間)は13.5時間で(図19)、前年同期比(指数、令和2年=100)は2.9%減少し、6期連続の減少となった(図20)。



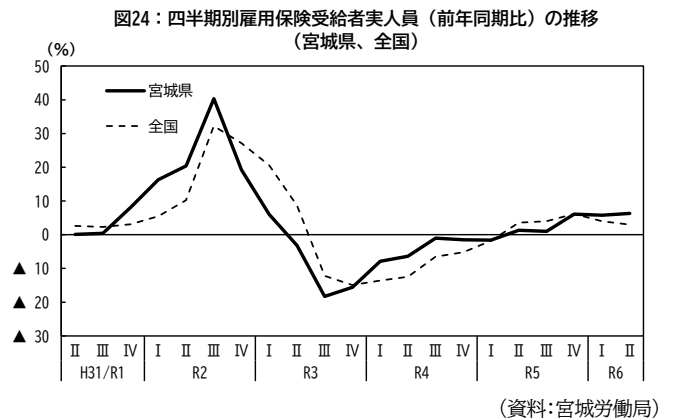
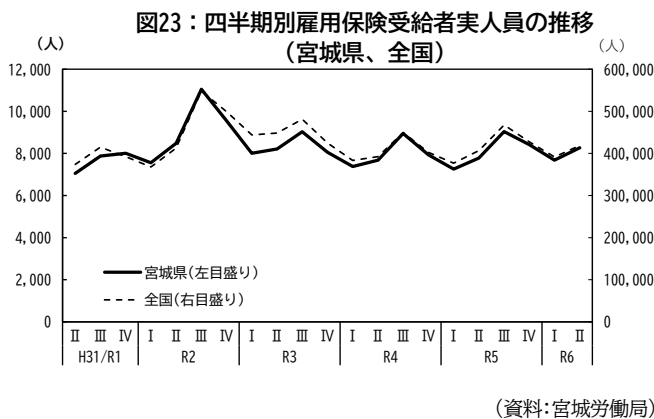
## (3) 実質賃金指数

令和6年第2四半期(4~6月期)の実質賃金指数(製造業、令和2年=100、事業所規模30人以上)は108.6で(図21)、前年同期比は2.2%上昇し、2期連続の上昇となった(図22)。



## (4) 雇用保険受給者実人員

令和6年第2四半期(4~6月期)の宮城県の雇用保険受給者実人員は8,269人で(図23)、前年同期比は6.3%増加し、5期連続の増加となった(図24)。





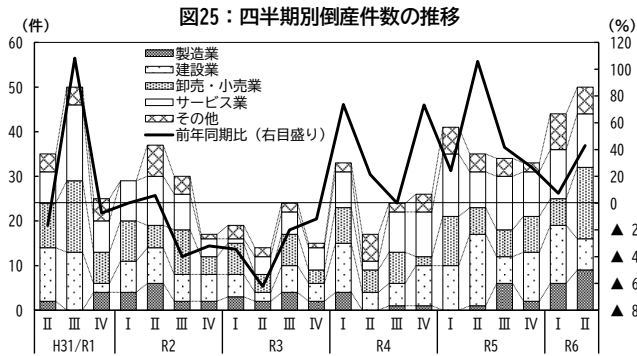
## 6 企業倒産

令和6年第2四半期(4~6月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は 50 件で、前年同期比は 42.9%増加し、7期連続の増加となった(図25)。

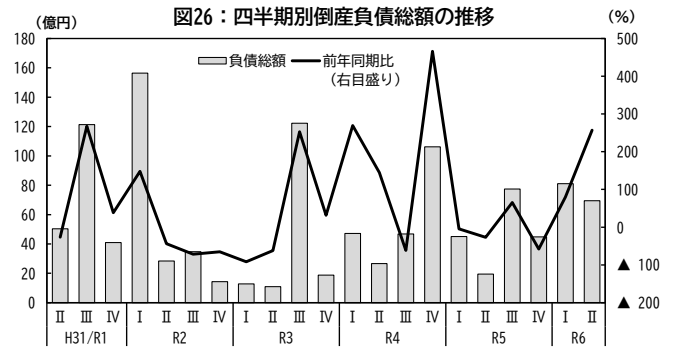
負債総額は 69 億 44 百万円で、前年同期比は 256.8%増加し、2期連続の増加となった(図26)。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ(赤字累積))の件数は 44 件で、前年同期比は 57.1%増加し、11期連続の増加となった。件数の構成比は 88.0%で、前年同期より 8.0ポイントの増加となった。

大型倒産(負債総額 10 億円以上)は発生しなかった。



(資料:(株)東京商工リサーチ)



(資料:(株)東京商工リサーチ)